

古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第4回

前回の課題の確認

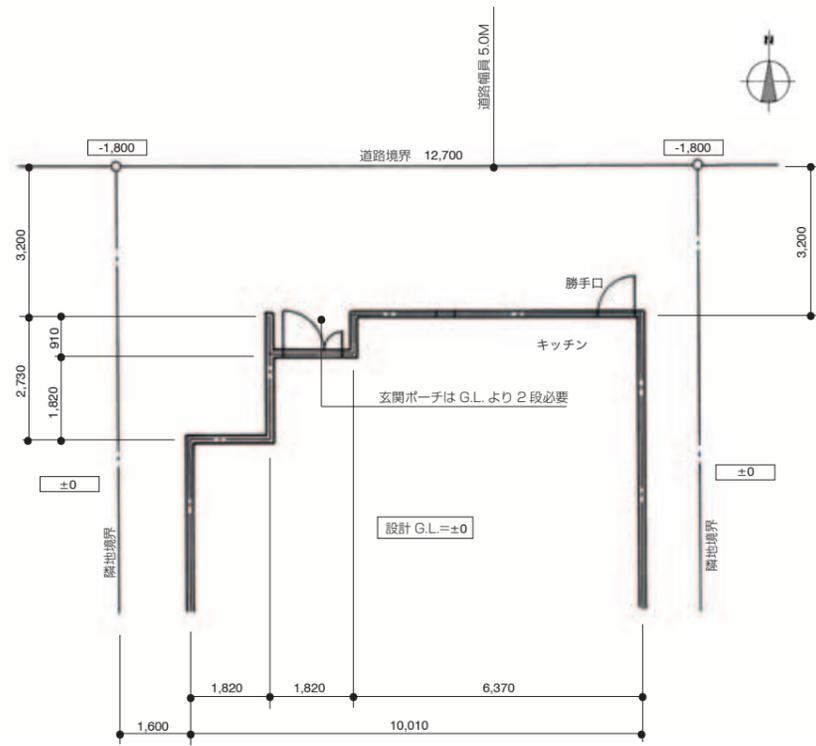
まず始めに前回の課題の敷地条件および施主の要望について確認しておきましょう。
敷地条件は北入りで、道路と敷地の高低差は1,800mmもあり、かなり高低差が大きな物件でした。

主な施主の要望は

- 駐車場 1 台分の確保。
 - 玄関までの階段の提案。
 - サービスヤードの提案。
- などでした。

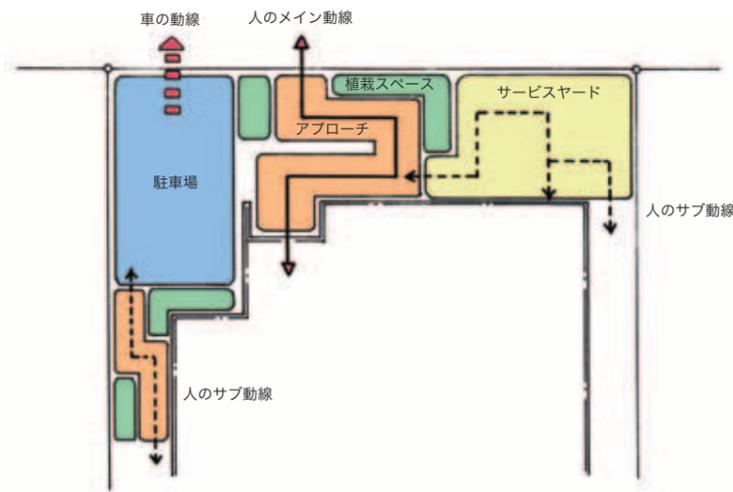
北入り狭小地で、高低差の大きな物件という難しい物件となっていました。みなさんはどのようなプランで対応されたでしょうか？

今回もまずはゾーニング図を使って基本的な考え方や、動線計画を解説していくことにしましょう。



ゾーニング

今回の建物配置であれば駐車場は北東の角に直角駐車とすることがベストだと思います。メインアプローチには少なくとも階段が11段と玄関ポーチで2段の合計13段必要となりますので、出来るだけ長くアプローチをとり、踏み面をしっかりと確保できるようにしましょう。長い階段は一気に上がるのではなく途中で踊り場を設けたり、上がる方向に変化を付けると良いでしょう。かなり狭いスペースとなりますが、できるだけ植栽スペースを組み込み、柔らかな表情になるよう心がけるとよいでしょう。



Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

生年月日: 1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校長一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

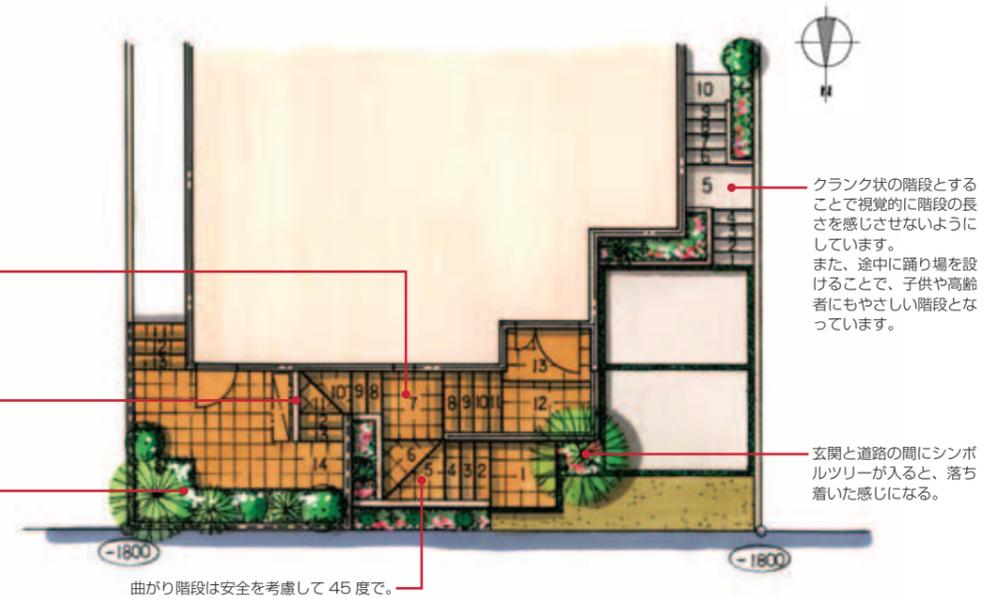
模範プラン

それではゾーニング図をもとに作成した模範プランをご覧ください。

立面図と比較しやすいように、便宜上立面図は北を下にして表示しています。ほとんど擁壁と階段がメインのプランですが、壁の色を明るくし、植栽の緑が映えるよう計画してみました。

平面図

人の動線が二方向に分かれる部分は踊り場として広めに。
玄関方向からサービスヤードが丸見えにならないよう目隠しを。
この植栽でサービスヤードのイメージが大きく変わる。

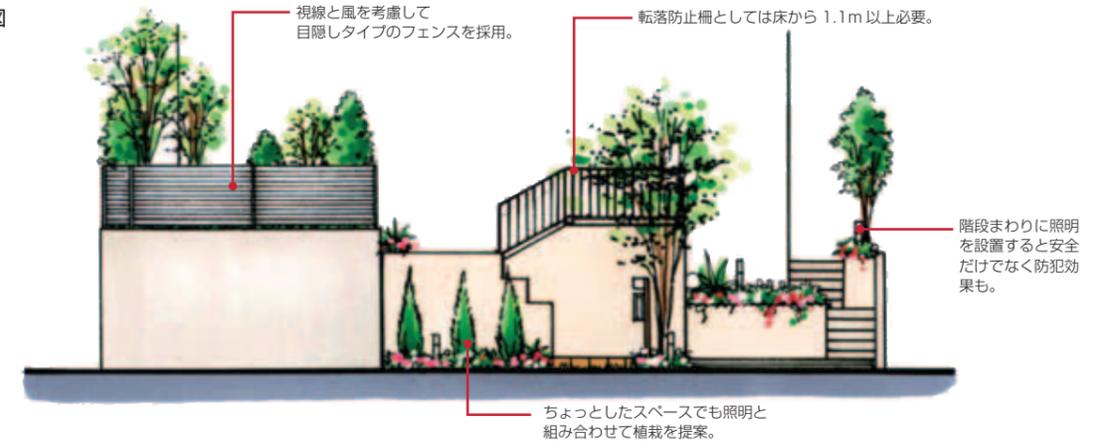


曲がり階段は安全を考慮して45度で。

クランク状の階段とすることで視覚的に階段の長さを感じさせないようにしています。また、途中に踊り場を設けることで、子供や高齢者にもやさしい階段となっています。

玄関と道路の間にシンボルツリーが入ると、落ち着いた感じになる。

立面図



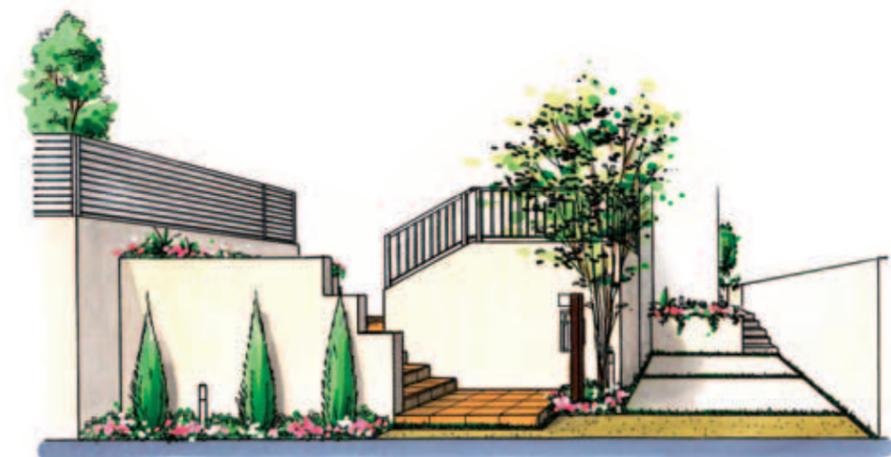
視線と風を考慮して目隠しタイプフェンスを採用。

転落防止柵としては床から1.1m以上必要。

階段まわりに照明を設置すると安全だけでなく防犯効果も。

ちょっとしたスペースでも照明と組み合わせて植栽を提案。

イメージパース



もちろん、このプランが正解というわけではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただきご自分で考えられたプランと比較して、各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にいただければ幸いです。